



蘇る一瞬 みとよ写真帳 page 52

このコーナーは、文書館に保存している古い写真を皆さんに紹介します。



懐かしの1枚
財田上駐在所
昭和45(1970)年以前
財田町

財田に巡査駐在所が置かれたのは明治22(1889)年頃のことである。財田上駐在所は昭和18(1943)年に財田上国民学校(元の財田上小学校)校庭内へ移転した。写真はこの駐在所。昭和45(1970)年には国道32号線沿いに移転し、平成8(1996)年に現在地に移転した。

※文書館では、まちの風景や催事などの古い写真を収集しています。原本はお返ししますので、情報の提供をお願いします。【文書館 ☎63・1010】

「思い出の1ページ」

「ああ、懐かしいなあ。この駐在所は財田上小学校跡地の庭園の辺りに建っていましたよ」と当時を振り返るのは、財田上小学校の近所に住む小川常雄さん(76)。

「この頃は藁葺きの家が多かったですから、瓦葺きの駐在所は当時としては立派な建物でしたね。私が小学生の頃、駐在所に住んでいた家族には娘さんが一人いてね。私の5つ下の妹は娘さんと同級生で、仲良くしていたのを覚えています。私は一緒に遊んだことはないですが、家のすぐ隣が校庭だったので、駐在所の周りで友達とかくれんぼをしたり、缶蹴りをしたりしていました。でも、駐在所には怖いイメージしかなかったなあ。終戦後の当時はまだ、警察官と言えは厳しい印象が残っていましたからね。外回りから駐在所さんが帰ってくると、遊ぶのをすぐにやめて、散るように家に帰っていましたよ」

地域の駐在所には近所の人が困りごとを相談に行ったり、差し入れをすることも多くあったそうです。

「母は駐在所の奥さんに大根やお芋、かぼちゃなど、家で採れた野菜をよく差し入れていました。同級生の子どもを持

つ親同士、気が合う部分もあったのでしょ。奥さんは優しい霧囲気で、子どもながらも親しみやすさを感じていました。近所の人と世間話をしている姿もよく見かけましたね。

残念ながらこの家族は、娘さんが小学校を卒業するともに引越してしまいました。あの駐在所は、地域にとって頼れる存在だったことを記憶しています」



編集 後記

二 豊市の木、桜が咲き誇る季節となりました。今月号の表紙は三豊の偉人・大久保謙之丞です。約130年前に四国全体の発展を目指し、道・鉄道・橋などで四国をつなぐことを提唱しました。その謙之丞のおかげで、今の私たちの生活は便利に、豊かになっています。例えば、瀬戸大橋。今では電車での東京日帰り旅行も可能なほど、自由に本州へ行き来できるようになりました。この便利さを生み出したのが、地元の偉人だと思ふと誇らしい気持ちになりますね。

4月8日、9日には戸川ダム公園で謙之丞まつりが行われます。桜を見ながら、大久保謙之丞に思いを馳せてみませんか。